平成 26 年 12 月
関西広域連合議会産業環境常任委員会会議録

平成 26 年 12 月関西広域連合議会産業環境常任委員会会議録　目次

平成 26 年 12 月 20 日

１　議　事　日　程 …… 1
２　出　席　委　員 …… 1
３　欠　席　委　員 …… 1
４　事務局出席職員職氏名 …… 1
５　説明のため出席した者の職氏名 …… 1
６　会　議　概　要 …… 2

○議　事　日　程

開会日時　平成 26 年 12 月 20 日

開催場所　本部事務局　大会議室

開会時間　午前 10 時 30 分開会

閉会時間　午前 11 時 37 分閉会

議　　題

1　調査事件

第１　広域観光・文化振興の推進について

第２　関西観光・文化振興計画の改定について

――――――――――――――――――――――――――――――――

○出　席　委　員　　(13 名)

1 番	富　田　博　明	15 番	合　田　博　一
3 番	家　森　茂　樹	17 番	釜　谷　研　造
6 番	村　井　　弘	20 番	角　田　秀　樹
8 番	北　岡　千はる	29 番	井　上　与一郎
12 番	横　倉　廉　幸	30 番	田　辺　信　広
13 番	吉　田　利　幸	34 番	西　村　昭　三
14 番	石　井　秀　武		

――――――――――――――――――――――――――――――――

○欠　席　委　員　　(5 名)

21 番	花　田　健　吉	32 番	木　下　吉　信
23 番	稲　田　寿　久	36 番	安　井　俊　彦
25 番	重　清　佳　之		

――――――――――――――――――――――――――――――――

○事務局出席職員職氏名

議会事務局長	佐　藤　博　之
議会事務局次長兼総務課長	村　上　元　伸
議会事務局調査課長	樋　本　伸　夫

――――――――――――――――――――――――――――――――

○説明のため出席した者の職氏名

広域連合委員（広域観光・文化振興担当）	山　田　啓　二
広域連合副委員（広域観光・文化振興副担当）	小笠原　憲　一
広域観光･文化振興局長	平　井　裕　子
広域観光･文化振興局次長	金　谷　宗　子
広域観光･文化振興局文化課長	雨　宮　　章
広域観光･文化振興局文化企画課長	嶋　津　誉　子
広域観光・文化振興局参事（京都市）	高　畑　重　勝
広域観光・文化振興局参与（滋賀県）	木　村　太　治
広域観光・文化振興局参与（観光・文化担当）（大阪府 ）	岡　本　圭　司
広域観光・文化振興局参与（兵庫県）	藤　井　英　映

広域観光・文化振興局参与（観光・文化担当）（鳥取県）	森　谷　　邦　彦
広域観光・文化振興局参与（徳島県）	新　田　　多　門
広域観光・文化振興局参与（大阪市）	森　　幹　雄
広域観光・文化振興局参与（堺市）	藤　原　　和　啓
広域観光・文化振興局参与（神戸市）	山　本　　猛
広域観光･文化振興局参与（文化担当）（滋賀県）	冨　永　　重　紀
広域観光･文化振興局参与（文化担当）（兵庫県）	平　野　　正　幸
広域観光･文化振興局参与（文化担当）（徳島県）	小笠原　　章
広域観光･文化振興局参与（文化担当）（京都市）	森　川　　佳　昭
広域観光･文化振興局参与（文化担当）（大阪市）	飯　田　　俊　子
広域観光･文化振興局参与（文化担当）（堺市）	河　村　　直　樹

――――――――――――――――――――――――――――――

午前10時30分開会

○委員長（村井　弘）　　それでは、これより関西広域連合議会産業環境常任委員会を開催いたします。

最初に、山田広域連合委員から一言ご挨拶願います。

○広域連合委員（広域観光・文化振興担当）（山田啓二）　　関西広域連合議会の産業環境常任委員会にあたり、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

平素は、広域観光・文化振興の運営におきまして、大変温かいご指導とご尽力をいただいていることに対して、改めて心から感謝を申し上げたいと思っております。

本日の委員会は、広域観光・文化振興についてご審議をいただくことになっておりまして、私と、それから副委員の小笠原憲一京都市副市長が出席をさせていただいております。

事務の詳細につきましては、後ほど事務局からご説明いたしますが、関西広域連合が設立されまして４年がたちましたが、広域観光・文化振興分野におきましては、平成20年３月に策定いたしました関西観光・文化振興計画に基づき、具体施策の展開に一生懸命今、取り組んでいるところでありまして、さらに次のステージを見詰めて準備を進めております。昨年、訪日外国人旅行客数が初めて1,000万人を超えまして、今、11月末で大体1,200万人を超えておりますので、ここのところずっと毎月100万人超えておりますから、ということは、12月が順調にいけばことしは1,300万人を超える、去年より30％ふえるという大変観光にとっては大きな進展の年になったというふうに思っております。それだけに、この勢いをしっかりと関西へ誘導していくということが我々にとっては大きな責務になってくるというふうに思っておりますし、さらに、2019年のラグビーのワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、そして、2021年のワールドマスターズという形で関西にとっても、日本にとっても非常にビッグイベントを控えているわけでありまして、こうしたことを念頭に、しっかりとこれからも関西を世界に売り込み、関西への誘客、そして、同時に関西の持っている大きな力であります文化を十分に生かした形で関西広域連合の各府県市が支え合って頑張っていきたいというふうに考えているところであります。

委員の皆さんにつきましては、私どもははなやか関西・文化戦略会議を立ち上げて、さらに将来に向かってどういう形で歩みを進めていくのかを検討している真っ最中でござい

ますので、きょうはそうした観点からもいろんな面でご指導いただけたらというふうに思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。
○委員長（村井　弘）　　次に、小笠原広域連合副委員から一言、ご挨拶を願います。
○広域連合副委員（広域観光・文化振興副担当）（小笠原憲一）　　おはようございます。
委員の皆様方には、平素から広域観光・文化振興の分野でご指導、ご尽力賜っていますことをまずもってこの場で厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。
京都市は、京都府とともに広域連合観光・文化振興の分野を担ってございまして、京都府とともにしっかりとその役割を果たしてまいりたいというふうに思っております。
先ほど、山田広域連合委員のほうからもご説明がございましたとおり、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、あるいはその前年のラグビーワールドカップ、あるいは2021年のワールドマスターズゲームズ、こうしたものが日本が国際社会の中でその存在感を高める絶好の機会であるとともに、関西広域連合としてしっかりとそれに対応していくことが何よりも大事だというふうに考えております。
話は変わりますが、先般、京都市が世界で影響力のある雑誌の一つでございますトラベル・アンド・レジャー、この雑誌で、ワールドベストシティという分野で１位をとらせていただいております。これまで悠久の歴史の中で育まれてきた景観、あるいは市民ぐるみのおもてなし、こうしたものが評価された結果だというふうに思っております。本市では、こうしたものをさらに続けていくために、観光振興計画を新たに半年前倒しで新しいものをつくりまして、こうしたものを先ほど申し上げたオリンピック・パラリンピック、あるいはマスターズゲームズ、ラグビーワールドカップ、こうしたものにつなげていきたいというふうに考えております。この計画をしっかりと進めていくためにも、関西広域連合の皆様方としっかりと連携し、関西全体としてのおもてなしの力を発揮することが何よりも大事だというふうに考えております。
本日、皆様には、忌憚のないご意見を賜りながら、そうしたものを進めてまいりたいというふうに考えておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。本日はよろしくお願いいたします。
○委員長（村井　弘）　　ありがとうございました。
本日の理事者側の出席者については、お手元に名簿を配付しておりますので、ごらんおき願います。
それでは、これより議事に入ります。
本日は、広域観光・文化振興の推進について及び関西観光・文化振興計画の改定についてを調査事件としております。
なお、終了時刻は12時30分を目途といたします。
それでは、広域観光・文化振興の推進について及び関西観光・文化振興計画の改定についてを、平井広域観光・文化振興局長から説明をお願いいたします。
平井広域観光・文化振興局長。
○広域観光・文化振興局長（平井裕子）　　広域観光・文化振興局長の平井でございます。
それでは、広域観光・文化振興分野の取り組みについて、ご説明を申し上げます。
資料１をごらんください。
広域観光・文化振興分野におきましては、平成24年３月に策定いたしました関西観光・

文化振興計画に基づき、関西を日本の観光・文化を牽引する観光圏として、海外から多くの方々に来ていただける地域にしていこうと具体的な施策展開を行っております。

この計画は、おおむね10年を見据えまして、関西が一体となって戦略的に取り組む方向を示したものでございますが、一方で、訪日外国人旅行者の大幅な増加や、東京オリンピック・パラリンピックやワールドマスターズゲームズ2021の開催が決まるなど、国際観光を取り巻く状況が大きく変わってきており、また、昨年度策定いたしました文化振興指針も踏まえまして、今年度計画の見直しを図ることとしており、現在、検討委員会を設置いたしまして改定案について検討を進めているところでございます。こちらにつきましては、この後の調査事件のほうでもう一度ご説明をさせていただきます。

次のページ、２ページをごらんください。

戦略の具体化を図るため、今年度の当初予算額は3,230万9,000円となっております。そのうち450万円は文化振興事業費となっています。

観光振興の平成26年度の取り組み状況でありますが、世界のマーケットにおいては関西の知名度がまだまだ低い状況であることを踏まえまして、国際観光ＹＥＡＲや海外トッププロモーションなど関西を世界に向けて積極的に発信する取り組みを中心に展開しています。

まず、１番のＫＡＮＳＡＩ国際観光ＹＥＡＲ2014でございますが、引き続きまして関係団体と連携を図り、クールジャパンの中でも代表的な関西のマンガ・アニメ等をテーマに据えて展開をしてまいりました。５月には、関西国際空港の関空旅博2014と連携した外国人観光客向けのＰＲを行いますとともに、９月には、京都市内におきまして、京都国際マンガ・アニメフェア2014と連携し、マンガ・アニメを切り口にインバウンド観光の可能性や展望を考えるシンポジウムやＰＲイベントを実施し、また、海外トッププロモーションにおきましても、関西のマンガ・アニメを紹介するなど、世界に関西の魅力をアピールしております。

３ページをごらんください。

海外トッププロモーションの実施でございます。

11月19日から22日にかけまして、関西経済界と連携し、井戸連合長を団長に、担当の山田広域連合委員を副団長に、昨今、経済成長が著しく、とりわけ、ビザの免除により、10月までの対前年比で訪日客が約1.5倍へと大幅に増加しております対マレーシアへのプロモーションを実施いたしました。今回のプロモーションでは、両国政府への表敬訪問や現地旅行者を対象にしたセミナーを行うとともに、マレーシアでは現地、大型商業施設での関西のマンガ・アニメを紹介する観光展及び13店舗が出展した物産展を開催し、関西への観光誘客と物産の販売を促進いたしました。両国での表敬訪問におきましては、関西は経済観光圏として重要な地域であり、関西ワールドマスターズゲームズ2014を見据えたスポーツツーリズムなどでの連携、交流や、関西のムスリム受け入れ、環境へのさらなる期待が示されるなど、有意義な意見交換が行われました。

次のページをお願いいたします。

名誉観光大使「ＫＡＮＳＡＩ観光大使」の任命でありますが、関西と海外のかけはしとして活動していただいており、関西のインバウンドに尽力いただいている方々を、また、さらなる活躍を期待いたしまして、関西観光大使に任命しております。今年度は、これま

での任命の11組、12名の方々に加えまして、タイのプロモーションにおきまして、旅行会社の社長の吉川歩様、また、同じく旅行会社社長のタナボディーバジャラシア様の２名の方を新たに大使に任命いたしまして、関西の観光情報の発信や関西への誘客にご尽力をいただきたいと考えております。

次に、（４）山陰海岸ジオパーク活動の推進でありますが、ジオパークに関するトップセールスに加えまして、外国人旅行者向けのフリーペーパーで山陰海岸ジオパークなど関西のすぐれた地質景観スポットを地質の道としてＰＲいたしました。

次に、文化振興の取り組みでございます。

各府県市が連携し、それぞれの特徴を生かしつつ、広域連合として統一的な事業を展開することで、関西全体としての観光振興にもつなげていきたいと考えております。

まず、人形浄瑠璃をテーマにいたしました関西文化の道事業の推進についてでございますが、本年度も引き続き関西で発祥し、全国に広がった関西共通の文化である人形浄瑠璃をテーマにモニターツアーの実施などに取り組んでおります。

次のページをごらんください。

関西文化の日及び関西文化月間の取り組みでありますが、関西圏域の文化関連施設の協力をいただきまして、11月の特定日を中心に、常設展示等を無料とする関西文化の日について、今年度は過去最高となる564施設の参加により、11月15日、16日を中心に実施したところです。

また、新たに今年度は、関西文化の日と連動して、11月を関西文化月間と位置づけ、関西文化．ｃｏｍの芸術文化情報サイトにおいて、関西各地のさまざまな芸術、文化情報を幅広く発信いたしました。

次に、（３）の関西元気文化圏推進フォーラムの開催ですけれども、文化芸術の再発見をテーマに、年２回、関西各地で開催しております。去る９月15日には、奈良県新公会堂におきまして開催いたしまして、また、来年１月21日には兵庫県公館での開催を予定しております。

次のページをお願いいたします。

（４）関西文化に親しむ機会の充実でございますが、関西全域の芸術文化情報を年間を通じてタイムリーに発信するＷｅｂシステム、関西文化．ｃｏｍを本格稼働いたしますとともに、地域文化の結晶である祭りを祭りの道としてまとめ、関西各府県の祭り情報を一元的にデータベース化して情報発信をしております。

（５）の関西文化の振興のためのプラットホームづくりでございますが、関西文化の内外への発信を強化し、関西文化を一体となって振興するため、さまざまな分野の専門家の皆様から幅広い知見を求めて戦略を検討するため、また、さらなる行政間の連携交流を図るため、はなやか関西・文化戦略会議を設置いたしました。今年度は、2020年東京オリンピックやパラリンピック、関西ワールドマスターズゲームズ2021などの開催に向けました関西文化の内外への発信強化について検討をいただいているところでございます。11月12日には、山田広域連合委員から文部科学大臣、政務官に対しまして、この間の議論を踏まえまして取りまとめました関西文化の取り組みを踏まえた東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの推進につきまして要望、提案をさせていただいたところでございます。

ページ後段のその他の取り組みでございますが、効果的な情報発信といたしましては、

関西を世界に売り込む効果的なツールとして、関西観光Ｗｅｂや、先ほども申し上げました関西文化．ｃｏｍなど、ホームページやフェイスブックなどを通じてリアルタイムに関西の魅力ある情報の発信に取り組んでいるところでございます。

また、通訳案内士につきましては、昨年度から外国人観光客の満足度、また、リピーターの意欲を高めるため、通訳案内士の資質向上を図る研修を行いまして、各自のスキルアップや通訳案内業務への活用など活動の場を広げる支援を行っております。

さらに、外国人観光客の観光動向を把握するため、観光庁などのデータをもとにいたしまして、関西の消費、観光統計について調査、分析に取り組んでいるところでございます。

今後ともご指導いただきながら、広く関西の観光文化の振興に取り組んでまいりたいと思っております。

引き続きまして、関西観光・文化振興計画の改定の中間案についてご説明いたします。

資料２をごらんください。

関西観光・文化振興計画は平成24年３月に策定されましてから２年と８ヵ月になりますが、これまで計画に基づきまして、先ほども申し上げましたように、関西を世界に売り込むため、関西をめぐる広域観光ルートの提案や、多様な魅力をＫＡＮＳＡＩ国際観光ＹＥＡＲ事業やトッププロモーションを通じて、さらには、関西観光ＷｅｂやＳＮＳ等を活用いたしまして、世界に向けて情報発信を行うとともに、人形浄瑠璃や祭りなどテーマで結ぶ文化の道のアピールなど、関西の文化の魅力と観光を結びつけて発信する取り組みや、おもてなしのインフラ整備として、外国人に優しい観光案内表示のガイドラインの策定や、Ｗｉ‐Ｆｉ環境整備についての検討、通訳案内士の研修など、多面的に関西のインバウンド観光の振興に取り組んでまいりました。

一方で、この間、訪日外国人客数が1,000万人を超え、さらにことしはそれを上回る情勢となっております。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズなど世界的なイベントも決まるなど、国際観光を取り巻く情勢が計画を策定した当時と大きく変わっております。こうした状況を踏まえまして、今年度、関西として次のステージに向かうべく、計画の改定を進めているところでございます。

今回の改定では、昨年度策定いたしました文化振興指針の内容を反映させ、観光と文化の両面から関西を世界に発信していくことをより強化するとともに、東京オリンピック・パラリンピック等の開催が関西の魅力をアピールする絶好の機会ということでございますので、この機会を捉えまして一丸となって取り組むということを新たな視点に盛り込んで改定を進めております。

計画の基本方針につきましては、アジアの文化観光首都を目指すことなど、先の計画から大きく変更はしておりませんが、数値目標につきましては、東京オリンピック・パラリンピック等が開催されます2020年、また、ワールドマスターズゲームズ2021などをターゲットイヤーといたしまして、関西により多くの外国人観光客に来ていただく。そして、関西により長く滞在していただく。そして、関西の文化によりたくさん触れていただくということで、関西のプランをふやし、2020年、21年の関西への訪問率を現行の33％から約40％に引き上げ、関西の外国人旅客者数を800万人にするなどを目指します、これはちょっと語呂合わせになってございますが、2020年（フレフレ）関西！800万人作戦を新たな目標として設定をしたいと思っております。

この新たな目標の達成に向けまして、また、世界的なイベントの開催も見据えました次のステップに向けての戦略を示していくこととしておりまして、まず、関西を世界に売り込むため、歴史・文化遺産など関西の魅力あるオリジナルの観光文化資源をマーケットインの視点で組み合わせたり、他の観光圏から入国する外国人観光客を関西に引き込み、関空アウトに誘導する新たな流れをつくり出すルートの確立など関西への誘客をさらに進めてまいりたいと考えております。

次に、新しいインバウンド市場への対応といたしましては、外国人観光客に人気の高い花見や紅葉、また、地域の祭りなど季節感あふれる関西の見どころをタイムリーに発信し、また、リピーター化を図っていくこと、それから、交通の至便性やホスピタリティの高さをアピールし、関西が個人旅行のメッカになるようファムトリップを実施するなどさらに関西の魅力を伝えていきたいと考えております。

また、的確なマーケティング戦略による誘客といたしましては、どういう国がどういうものに興味を持っているのか、どこの国でリピーターや個人旅行が多いかなどの情報を把握し、関西観光Ｗｅｂ等を活用いたしまして、情報発信などを行っていきたいと思っております。

また、安心して楽しめるインフラ整備の充実も必要と考えており、海外から観光に来ていただいて、おもてなしや利便性の向上を図り、Ｗｉ‐Ｆｉ環境、観光案内表示、ムスリム対応などを進めていきたいと考えております。

文化の面でございますが、関西文化の魅力発信といたしまして、関西にある伝統芸能、祭礼から現代芸術に至るまでの数多くの有形・無形の文化資源、この集積を生かしまして、関西文化の認知度とイメージを高めていくため、関西文化．ｃｏｍの芸術文化情報サイトなどを活用いたしまして情報発信を行ってまいりたいと考えております。

さらに、東京オリンピック・パラリンピック等に向けましては、関西こそが日本の文化を発信する中心という思いで、国とも連携いたしまして、関西文化プログラムの実施や関西の歴史的な周年事業をつなぎ合わせて発信する関西文化首都年事業など関西各地での事業の実施、また、ワールドマスターズゲームズ2021と連携いたしましたスポーツ観光の取り組みなども進めていきたいと考えております。

最終案に向けまして、連合議会、パブリックコメント等のご意見も踏まえまして、検討委員会でまとめていただきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

計画の改定に係る報告は以上でございます。

○委員長（村井　弘）　　説明はお聞き及びのとおりであります。

それでは、質疑に移ります。

ご発言があれば挙手願います。

北岡委員。

○委員（北岡千はる）　　ご説明ありがとうございました。

さまざまなお取り組みをいただいていることに感謝と評価を申し上げたいと思います。

一点だけ、戦略テーマが安心して楽しめるインフラ整備の実施ということで、とりわけおもてなしのところ、観光案内表示、標識等の多言語対応の強化等々と書いてあるんですけれども、多分、ＳＮＳとかで皆さん、道順もおわかりになられると思うんですけども、

より親切な表示というのが必要だということでこれに取り組むことになっていると思います。

そこで、要は安心して楽しめるということはイコール人に優しいインフラ整備の充実ということも私はイコールだと思うんですが、とりわけこういうような表示の方法について、障害を持たれている方々への配慮についてはどのようにお考えか、そのことをお聞きしたいと思います。

○委員長（村井　弘）　　平井広域観光・文化振興局長。

○広域観光・文化振興局長（平井裕子）　　観光案内表示につきましては、まず、当面は外国人観光客に向けての多言語案内表示というのをやっていきましょうということで、ガイドラインをつくらせていただいております。また、今、おっしゃいました障害のある方、バリアフリーの関係につきましても取り組ませていただきたいと思っておりますが、こちらにつきましては、今、どんどん進んでおりますＩＣＴのほうを活用したような音声でのガイドとか、そのような形のものを官民連携のほうで進めていくということで、今、関西経済連合会様のほうの関西観光戦略の研究会などを通じまして、一緒に勉強させていただいているところでございまして、できるところから取り組んでいきたいというふうに考えております。

○委員長（村井　弘）　　北岡委員。

○委員（北岡千はる）　　ありがとうございます。視覚、聴覚それぞれに皆さん、障害のある方々に対しても、全ての方に対して優しいということでのインフラの整備、特に、せっかく来ていただいて、どういうものがあるということがわかりやすいような状況にできるだけもっていっていただくようにということで要望しておきます。

以上です。

○委員長（村井　弘）　　他にご発言はございませんでしょうか。

西村副委員長。

○副委員長（西村昭三）　　ちょっとお聞きしたいんですけど、外国人が今、たくさん日本に来ていただいているのもありがたい話なんですけども、今、この2020年フレフレ関西の数値を見ますと、関西で2.5日ぐらいが宿泊されているような計算をされているんですけども、外国から来る人で大体日本の国内に何日ぐらい計画されているのかというのが１点。

それと、日本へいろんな外国から来られるわけだけども、日本のどの地域、いわゆる東京とか関西とか、大体その辺におりられると思うんですが、船で来られる方もいますけども、それから、どの地域に東京へどれくらい、関西までどれくらい、そして、関西から今度、どこへ行く、あるいは日本のどこの空港から外へ帰られるのか。そういうデータというようなものがあったら教えていただきたい。

もう一点、今、東京も関西も免税店がたくさんあちこちにできているわけなんですけども、免税店の販売している品物というのは大体、どういうものが売れているのか。それとも、また消費税なんかは、税金そのものは免税店ですから安いんですけど、消費税なんかはこれはやっぱり免税を引いた上にまた消費税がかかるのか、消費税もかからないのか、その辺どうなんですか。ちょっと３点ほどお聞きしたいと思います。

○委員長（村井　弘）　　平井広域観光・文化振興局長。

○広域観光・文化振興局長（平井裕子）　　まず、外国人宿泊者の皆様方の連泊の状況でございますが、こちらにつきましては、国とか地域によって少し差がありますけれども、例えば、韓国とか台湾から来られるお客様については、２泊３日とか割と短い期間で来られて、そのかわりリピーターとして何回も来るというような傾向がございます。また、アメリカも含めまして、欧米につきましては、かなり長期に来られて、15泊、16泊というような形で長く日本に滞在される傾向があるというふうに調査結果等では聞いております。関西のほうにつきましては、平均的には今、副委員長がおっしゃったように２泊とか３泊とかというのが統計数字では出ているところでございますが、私どもといたしましてはこれをできるだけ長くしたいというふうに考えているところでございます。

また、他地域の状況でございますが、先ほど申し上げました地域別の訪問率というのを国のほうが数字で出しているところでございますが、先ほど申しましたように、関西、近畿運輸局管内になりますが、33％という訪問率になっております。これが、例えば、東京を中心とします関東になりますと53.7％、これが一番高いです。また、そのほかに九州のほうに12％ぐらい、北海道で８％程度というような形になっておりまして、今、関西は東京圏に次ぎまして第２の訪問率という形になっています。

また、関西に来られた方がどこから、またはどこへというところでございますが、今のところ、関西に来られる方の多いのは関空イン、関空アウトの方が多いというような形になっておりまして、次に東京のほうに入られて新幹線等で関西に来られる方が多いというふうに聞いております。この後、関空アウトで出ていかれるお客様もおりますし、また、他地域に出て行かれる方もおりますけれども、関空イン、関空アウト、特に、関空アウトというのが観光といたしましては、免税品を買っていただいたりするのも有効でございますので、関空アウトを目指していきたいというふうに考えております。

その免税店でございますが、ことしの10月１日から、ほぼ全ての品物が免税の対象になりました。それで、こうした動きを受けまして、全国的に免税品店が非常に今、増加している状況でございまして、多種多様なお店が免税品店になろうとしておられます。ただ、現状では、人気があるのはドラッグストアなどのところで買えるコスメとか、それから、紙おむつとか、そういうようなものを大量に買っていかれるというような動きがあるというふうに聞いておりますが、関西地域で特に何がというところまではちょっとまだ把握しておりません。

免税品でございますけれども、タックスフリーとデューティーフリーと両方あるかと思いますけれども、国内のものにつきましては、まず、消費税が免税されるというふうになっているかというふうに思います。その上で、関税がかかるものについてはデューティーフリーのお店におきましては、そういう取り扱いもされるというふうに認識しております。

○副委員長（西村昭三）　　ありがとうございました。

○委員長（村井　弘）　　山田広域連合委員。

○広域連合委員（広域観光・文化振興担当）（山田啓二）　　ちょっとだけ補足だけしておきますけれども、大体、統計のとり方によると思うんですけれども、大体、去年で1,000万人ぐらい来られていて、それに対して外国人の宿泊者数の延べ日数が大体3,300万ぐらいです、宿泊です。これを単純に割りますと、大体3.4泊ぐらい、3.3泊から3.4泊ぐらいということになりますので４泊５日か、３泊４日ぐらいが、この統計でいけば平均的

な数字になるのかなというふうに思っております。
それから、観光客数の来る場所なんですけれども、これはちょっと気をつけなければならないのは、外国人訪日客数というのはビジネスも入っているんです。大体、その割合からすると、ＪＮＴＯの統計だと８割ぐらいが観光客になっているんですが、我々も外国に行くときに、税関を通過するときに、委員の方の中にもご経験があると思うんですけど、聞かれたときにはサイトシーイングと答えている、視察に来たというと何をしにきたのかとかいろいろ聞かれて面倒だからサイトシーイングと答えてしまうという例があると思いますので、実際はビジネス関係も結構多いんじゃないかなというふうに思っておりまして、そうなってくるとどうしてもやっぱり東京圏のほうが多くなってくると。ですから、京都でも実際、訪日外国人客数が来るところの中で、来ているのは２割を切っているんです。関西全体で33％で、１位は大阪でありまして、これが大体４人に１人ぐらいが大阪へ来るというぐらいの状況でありますので、そうした点、ちょっとビジネスを盛んにしていかなければ、こちらにとまる人も少なくなるということがあるかと思いますけれども、そういう中で、今回40％を目指しているというのはある面でいきますと非常に高いハードルを課しているんじゃないかなというふうには思っております。
以上です。
○委員長（村井　弘）　　ありがとうございます。
他にご発言はございませんでしょうか。
角田委員。
○委員（角田秀樹）　　今日、平成24年から３ヵ年、次の３ヵ年への中間案というのをお示しをいただいたわけでございますが、この３ヵ年の中で、外国人の、山田広域連合委員のほうからおっしゃられましたが、ビジネスと観光ということでありますが、本年度は何といっても円安効果、これで非常に外国人客が多くなったんじゃないかなというふうに思います。
そこで、今後の課題という部分で、資料２の中でもご提議されておりますけども、そもそも文化とか云々とかいうのがいろいろあって、今後の体制充実が必要であるというふうに結ばれておりますけども、これは実際に外国人が関西にお越しになってのアンケート調査に基づいての課題なのか、それとも、当局のほうがいろいろと多岐にわたって情報を収集されての一つの課題なのか、その辺をちょっと教えてもらいたいと思います。
○委員長（村井　弘）　　平井広域観光・文化振興局長。
○広域観光・文化振興局長（平井裕子）　　先ほど、事業の説明の中でも少し触れさせていただきましたが、関西の観光の基礎的な情報を得るために、アンケート調査などを空港等で実施しておりまして、そのときとか、それから、国際観光ＹＥＡＲのときのイベントなどでもアンケートを実施しておりまして、そのアンケート結果も踏まえましての分析等をさせていただいているところでございます。
○委員長（村井　弘）　　角田委員。
○委員（角田秀樹）　　サンプル数はどのくらいありましたか。
○委員長（村井　弘）　　平井広域観光・文化振興局長。
○広域観光・文化振興局長（平井裕子）　　正確な数字は今、持ち合わせておりませんけれども、今年度のアニメをテーマといたしましたイベントのときに、京都駅でイベントを

しまして、そのときに来ていただいたお客さん、500人ぐらい来ていただいたんですけど、皆さんにアンケートを実施していただけるわけではないのですけれども、そういう方々にアンケートの協力をいただきまして、データを収集したところでございます。
○委員長（村井　弘）　　山田広域連合委員。
○広域連合委員（広域観光・文化振興担当）（山田啓二）　　２点ほど申し上げたいと思うんですけども、一つは、もちろんアンケートもやっておりますけれども、ことしも私どもタイとマレーシアに行きまして、私はその前日にシンガポールに行きまして、それぞれの観光庁や、観光の責任者ともお会いをしてまいりましたし、観光業者の会長さんとか、副会長さんともお会いをしてまいりまして、そうした中で、その前年は香港とかに行ってまいりまして、皆さんとも情報を収集していく中で、一番具体的に聞いておりますのは、現地の日本へ送客をしている業界の皆様の意見ですね。そうしたものを背景にしていくと、先ほど述べたようなところが課題となってくるという点はいえると思います。
　それから、委員がちょっとお話しになりました、円安効果というのもあるとは思うんですが、ただ、ことしで見てみますと大きな特徴は二つございます。
　一つは、中国がＶ字回復をしたと。120万人から200万人を超えるところまでいったわけですね。これはある面でいうと国際情勢とか、あそこの国の特徴で、政府が行くなといった瞬間誰も来なくなってしまうというところがありますので、そのＶ字回復で８割ぐらい伸びているわけです。80万から90万ぐらい伸びているんです。これは物すごいことです。
　それから、もう一つ、伸びている国が二つあります。正確に言うと三つなんですけども、これはタイとマレーシア、それから、ベトナムです。特に、タイとマレーシアの伸びが物すごく大きい。この二つはやはりビザが解禁をされたということで急速に伸びてきている。タイなどはあっという間に50万人に達してまいりましたんです。あとは、香港とか、台湾が伸びているのはやっぱり円安ではないかなというふうに思っておりまして、韓国も若干伸びているんです、実は。これだけ何かいろいろ騒いでおりますけども、このあたりは円安じゃないかなというふうに感じます。
○委員長（村井　弘）　　角田委員。
○委員（角田秀樹）　　ありがとうございました。
　日本国内の、例えば、ＪＴＢとか、日本旅行とか、近畿日本ツーリスト、現地で各支店を持っておりますが、そういったところへの働きかけはどうですか。
○委員長（村井　弘）　　山田広域連合委員。
○広域連合委員（広域観光・文化振興担当）（山田啓二）　　タイとか、マレーシアに行ったときにも、現地の法人を訪ねまして、こちらからわざわざＪＴＢの西日本の社長が行かれまして、向こうと懇談をしていく中で、業界とのセッションがございまして、そうした中で情報を収集している。例えば、マレーシアでやはりハラールの問題とか、こうした点についての要望が多かったとか、タイのあたりはもうどちらかというと、行けるんだったらすぐ行くよという非常に積極的な、もうお金の問題だけだという話で。どちらかというと、じゃあ、どこへとまるのか、京都の場合だと京都はとまれないんだとか、そうしたところのお話は聞いてまいったところでございます。
○委員長（村井　弘）　　角田委員。
○委員（角田秀樹）　　ありがとうございます。

やはりエージェントのいわゆるセールスの仕方で旅行者の目というのは非常にバランスを、重きを置いたところに流れる傾向が実はあるんです。旅行に行くまでが約８割ぐらいの期待がありまして、現地に行って２割、その２割の分をいかに５割、６割に膨らますかというのが今後の受けの我々の課題ではないかなというふうに思いますので、どうぞ、また今後３年間の施策につきましては、しっかりと練っていただければなというふうに要望しておきたいと思います。

○委員長（村井　弘）　　釜谷委員。

○委員（釜谷研造）　　今、訪日外国人の数がありまして、今、お話を聞きますと、訪日者の数の２割ぐらいがビジネスで、観光あるいは行楽、そういう関係は８割ぐらいだと。そういうことを聞いたわけなんです。恐らく、外国からこっちへ来る場合、成田、関空、中部、そんな順番やないかと思うんですけど、勝手に想像いたしますと。それで、その中でも例えば、３泊４日という平均になりますと、日本に来たら関西へも行きたい、東北へも行きたいと。その移動時間にやっぱり１日ぐらいかかってしまうと。となると実際にこっちに滞在しているのは2.5日ぐらいであると思うんです。これをもっと長くするということに非常に力を入れてほしいと思うんですが、例えば、関西なら関西に来た場合に、今まで関西の現状を見ていますと、各府県ごとのいろんなコースはあっても、これを関西全体のコースというのを我々今まで設定していなかったと思うんです。例えば、兵庫県に行ったら兵庫県だけでずっと回ってもらうコースである。京都やったら京都、奈良やったら奈良やないかと思うんですけど、これからやっぱり関西一円としてのコースの設定を、例えば、いろんなメニューをつくっていただいておると思うんですけども、例えば、それが３泊なら３泊コースとか、あるいは４泊コース、そういうのを設定してもらって、今まであまり知られていなかった、特にやっぱり関西は歴史・文化のこれが非常に大きなポイントになると思うんですけども、それも十分に盛り込んだような格好のそういうメニューなんかつくっておられるんでしょうか、関西として。

○委員長（村井　弘）　　平井広域観光・文化振興局長。

○広域観光・文化振興局長（平井裕子）　　私ども広域観光ルートというのを設定しております。こちらにつきましては、委員がおっしゃっていただきましたように、関西の各地のいろんな魅力をテーマを絞って、テーマによってつないで、３泊４日とかを念頭に置きましてコースを設定しております。例えば、初めての関西満喫コースということになりますと、京都でございましたら、清水寺とか、そのあたりの有名なところとか、琵琶湖のクルーズ、そして、仁徳天皇陵とか、大阪のショッピングとか、そのようなオーソドックスな魅力を集めたコースというのを一つつくらせていただいておりますが、そのほかにも日本人の心の聖地をめぐるツアーとか、伝説の瀬戸内海と秘境の景観をめぐるとか、関西の歴史遺産をめぐるとか、関西のいやしと健康、これは温泉中心でございますが、それから、クール関西の体感ということで、マンガ・アニメを中心としたコース、それから、エンターテイメント関西ということで、少し無形文化遺産などを回るツアー、あと、自然をめぐるツアーというような形でルートを設定しておりまして、全部で今、八つの広域観光ルートというのを設定いたしまして、プロモーションなどで現地の旅行会社さんにアピールをしているところでございます。

○委員長（村井　弘）　　釜谷委員。

○委員（釜谷研造）　　兵庫県の観光政策について、一度、大阪の観光局か何かを呼んでやったんですけども、かなりプロの方がおられまして、何かそういう旅行社におられた方を採用されて、海外へどんどんプロモーションしておられると。これは非常に効果があると思って、兵庫県もこれを入れんといかんなと思ったりするんですけども、そうやることでやっぱり今、角田委員がおっしゃったエージェンシーとか、あるいはそういう専門、いわゆる職業としてやってきた、そういう方をそういうところにどんどん取り入れてもらってやってもらうというのは、私は非常に効果があると思うんですが、いかがでしょうか。
○委員長（村井　弘）　　平井広域観光・文化振興局長。
○広域観光・文化振興局長（平井裕子）　　私どももそのように考えております。今、申し上げました八つの広域観光ルートを設定する際にも、私どもの職員だけのワーキングのほうに、ＪＴＢさんとかそういう旅行会社さんのほうのプロの方に来ていただきまして、アドバイスもいただきながらルートのほうの設定をさせていただいたところでございます。今後もこのような観光ルート、新しいものをつくる際におきましては、そういう専門家の皆さんのご意見を踏まえながらやっていきたいと思っております。
○委員（釜谷研造）　　よろしくお願いいします。
○委員長（村井　弘）　　山田広域連合委員。
○広域連合委員（広域観光・文化振興担当）（山田啓二）　　二つほど課題がありまして、一つは今、申し上げましたように、関西を中心としたルートを我々がつくって、ファムトリップと呼んでいる旅行業者やマスコミを呼んで、そのツアーを宣伝をしてやっていきたいと。ただ、今回、やっぱり観光計画の改定に当たっては、かなりやはり北陸新幹線とか、新しいものが出てきておりますので、また、クルーズ船とか、アウト、インの関係もちょっと変わってきているということで、関西へうまく誘導していく流れみたいなものをつくっていくということが一つの課題として今、提起をして、ある面でいきますと、関西だけのルートから、関西に重点を置くようなルートというふうに少し戦略を変えていったらどうかということが今回の計画の中にも盛り込まれているところであります。
　そういったところから、旅行社の方なんですけど、実は京都府も２名ほど旅行社の人間を採用しております。ただ、問題なのは、その中で一番我々が直面しているのは、旅行社から採用すると非常に他の旅行社から、これはいろいろ出てくる。特に、彼らが心配をしているのは、こうしたトリップ関係のいろいろな提案をすると、その提案の中身が筒抜けになるんじゃないかというのを非常に心配される例が多くて、ちょっとこれは実際問題として私どもが直面しています。ですから、関西広域連合の観光として採用するというよりは、関西、これだけ広いわけでありますから、今、広域観光・文化振興局長が申しましたように、旅行社の皆さんを我々の中に取り込んでいく、戦略会議とか、そういうので取り込んでいく中でノウハウを吸収していくというのが、関西広域連合の立場としてはいいのではないかなというふうに思っております。
○委員（釜谷研造）　　ぜひひとつ、お願いいたします。
○委員長（村井　弘）　　他にご発言。
　家森委員。
○委員（家森茂樹）　　さっきからずっと聞かせていただいて、外国人観光客の誘客ということがほとんど話題になっているのかなと思うんですけども、もちろん国内旅行、これ

もあるわけで、両方の観点から一つはまず、国内のほうからなんですが、北陸新幹線が開通します。九州新幹線が開通して、鹿児島まで開通して、恐らくこっちから九州へ行く人というのはかなりふえたと思うんです、想像なんですが。逆に、九州方面から関西へお見えいただいている、この状況がどうなっているのかな。同時に北陸新幹線が開通する、それから、サンダーバードが金沢どめになってしまう。富山へ行かないサンダーバードとは何やねんと、こういう笑い話もあるんですけども、これが北陸方面の方々が東京へ、東京へと、こうなるんではないかなという危惧が大変ありますので、まず、現状から、北陸方面から関西のほうへ来ていただいているというような、そんなデータがあればということと、今後の見通しなり、それから、どうやっていったらいいのかなというのは今、突然言ってもわかりにくいかもわかりませんけれども、何らかのお考えがあればひとつお聞かせいただきたいなと。

それと、外国人観光客の誘客、このことなんですが、東京オリンピック、パラリンピックがあると、実は私も何年前になるのか、アテネオリンピックの応援に、実は知り合いが出ましたので行きました。アテネオリンピックへ行くのにミラノでおりて１泊して、それから、ギリシャに渡って、応援して、今度、ローマへ行って、ローマを観光して帰ってきたと。何でかなと思ったら、やっぱりアリタリア航空がいいと。こういうことで、ギリシャへ直で行くよりも、イタリアへ行って、アリタリア航空のほうがよかったと。これは当時ＪＡＬと提携していての便やったというふうに思うんですけども、先般のプロモーションも関空の社長も一緒に行っていただいていると、こういうお話なんですが、やっぱり関空にどれだけの航空便が就航していただけるか、ここのとこかなと思うんです。なかなかこれは鶏と卵みたいな話で、客のいないところへ就航できるかとか、こんな話がもちろんあるんでしょうけれども、そこら辺の対策というのか、お考えというのか、航空会社への働きかけというのか、そんなことがあればちょっとお聞かせいただきたいなと思います。

○委員長（村井　弘）　　平井広域観光・文化振興局長。

○広域観光・文化振興局長（平井裕子）　　国内観光につきましては、済みません、関西広域連合の広域観光の所管事務が国際観光という形になっておりまして、データはちょっと収集してございません、申しわけございません。

ただ、北陸新幹線ができる、開通するということは、国際観光の面でもインパクトがあることだというふうに思っております。先ほど、山田広域連合委員のほうがお話しいたしましたように、より広域的に関西に集客してくるためには、東京から入って北陸新幹線に乗って金沢まで来た人をそのまま東京に帰すのではなくて、関西に引っ張ってくるということが今後大事になってくるかと思っていますので、そういう意味で北陸新幹線については、私どもも重要だというふうに認識しております。

また、関西空港でございますけれども、関西空港の魅力をアップすること、また、利便性を向上させることが大事ということにつきましては、前回の計画のほうにも記載をさせていただいておりまして、そのような意味で、トッププロモーションのほうにも一緒に行っていただきまして、そういう現地の声なども生で聞いていただきながら、民間さんと連携して、その魅力向上に努めていくような形を広域連合としても考えているところでございます。今般、大変、関西へ外国からお客さんが来るようになったのも関西国際空港にＬＣＣの増便がなされたということが大きな要因だというふうに考えておりますので、今後

とも連携をしていきながら、利便性の向上等に努めていただくようにお願いしてまいりたいと思っております。
○委員長（村井　弘）　　山田広域連合委員。
○広域連合委員（広域観光・文化振興担当）（山田啓二）　　今、お話がありましたように、何といっても外国人の観光客数７人は住民１人に当たるというだけの経済効果があるという統計がありますけれども、やはり国内観光だと関西広域連合というよりは、それぞれの都道府県のところでやっていくということがありましたので、我々の国際観光という、どちらかというと国際的に見れば、京都も大阪も神戸も点だと。そうしたところをうまく面にするということで、そちらのほうを重点的にやってきております。
それから、北陸新幹線の問題は非常に大きな問題でありまして、これは関西広域連合自体も大変な危機感を持っております。つまり、北陸が完全に東京圏になってしまうんじゃないかということで、いち早く、我々も北陸新幹線のルート問題に対して話をつけていかないとどうしようもないということで、関西広域連合の中でも議論をして米原ルートが一番我々としては望ましいというのを、これは京都も滋賀も非常に苦渋の決断と申しますか、時間がない中で出してきているわけでありますが、ご存じのように、福井県は小浜ルートを主張されているということで、なかなかその点がまだいっていない。
ただ、一方で、ことし大きな一つ出来事がございまして、小浜、敦賀間が開通いたしました、これは高速道路ですけども。これによってやっぱり京都の北部に来る方が非常にふえております。そして、神戸へも舞鶴自動車道で全部直結することになりましたので、ある面でいきますと、北陸新幹線のマイナス効果はあるかもしれませんけれども、そうした形の高速の環状網ができましたので、こうしたものを利用して行くということが重要じゃないかなと思っています。
それから、航空会社につきましては、アリタリア航空がいいという話がありましたけれども、関西のいき方はどちらかというと、安く早いところを目指そうと。よく言われているのが関東と関西の飛行機会社の違いというのは何かというと、関東は前から詰まっていくと、関西は後ろから詰まっていくというのがよく言われるんですけれども、そうした中でＬＣＣ、本当にわずかな間に物すごくふえまして、ことし153便、夏までに、去年が119便で、2011年が43便しかなかったんです。３年間で４倍にまでもってきた。これは関西広域連合と、そして、関空を初め民間が一生懸命マレーシアやみんな出かけていって、ＬＣＣの会社まで行って引き寄せてきている。そういう面で非常にいいというか、それからいくとあるかもしれませんけど、安くて、簡単に関西に来られるというところの強化というものが、とうとう今年関空が500万人を突破するという、非常に大きな実績に結びついてきたんじゃないかなというふうに思っております。
○委員長（村井　弘）　　１点、九州新幹線からの関西の誘客というのは、これはもう所管外だから、これはいいですか、聞かれていたように思う。
○広域連合委員（広域観光・文化振興担当）（山田啓二）　　データが多分ないと思うんですけども。
○委員長（村井　弘）　　木村広域観光・文化振興局参与。
○広域観光・文化振興局参与（木村太治）　　滋賀県なんですけど、ちょっと関西全体のデータは私も持っていないんですが、滋賀県に来られる旅行者のうち、九州から、じゃら

んの宿泊旅行調査等によりますと、４％から６％ぐらいの間になっているということでございます。
○委員長（村井　弘）　　他にご発言は。
　石井委員。
○委員（石井秀武）　　日本は地震大国であります。また、最近、火山活動が大変活発になってきておるといったところで、海外から見て日本に来てもらうのに、そういった意味ではマイナスな要因もある中で、とりわけ関西はある程度、他の地域と比べて安全であるというような、そういった発信も必要であると思っております。特に、来年、阪神淡路大震災から20年を迎える、そういった中で、その取り組みの重要性をどのように認識されておるのかというのをちょっとお聞きしたいんですけども。
○委員長（村井　弘）　　平井広域観光・文化振興局長。
○広域観光・文化振興局長（平井裕子）　　来られた観光客の皆さんに、安心、安全に関西の地域を回っていただくということが重要だと思っております。そういう意味で、今回の広域観光計画の中にも、災害や緊急時などに外国人観光客の皆さんが安心、安全を確保するための環境整備や取り組みについても少し触れていきたいというふうに思っておりまして、今まだ中間案の段階では少し不十分なところがございますので、そのあたりもう少し関西広域連合の広域防災局のほうと調整いたしまして、どのような取り組みができるかということにつきまして、もう少し内容を深めてまいりたいというふうに思っております。例えば、災害時に交通機関が途絶した場合等におきまして、いろいろな施設との協力をいただいて、外国人観光客の皆さんが一時滞在ができるような施設を提供するなどそのようなことができないかということについて検討して、計画のほうに反映させていけたらというふうに考えております。
○委員長（村井　弘）　　山田広域連合委員。
○広域連合委員（広域観光・文化振興担当）（山田啓二）　　安全情報に関しましては、どちらかというと、東日本大震災が起きたときに、やはり放射能の問題の話はすごく出ました。私ども、中国に行ったりしましても、福島と関西の間が北京、上海よりもまだあれですよとか、そんな話をしてやっておりましたけれども、最近、確かに火山とか地震の話があるんですが、行った先でそこのところを問題にする方は余りいらっしゃらなかったです。地震ですと、東南アジアとかインドネシアとかいっぱいありますし、中国も地震大国ですし、そうした点での問題はない。
　ですから、逆に言うと、我々、気をつけなければいけないのは、何かあったときの観光客に対する安全情報をどうやって的確に準備していくのか。この問題というのは非常に大きな問題で、特に、京都のように、外国人観光客を始め観光客が多いところでは、私ども、京都市さんとも連携をして、観光客の避難訓練とか、一時待機場所の設定ですとか、そうしたところを今、一生懸命やっているところでありますし、これから東南海の問題がありますから、そうした点において、どちらかというと、観光客というよりは今、全体の避難のほう、これは原発も一緒なんですけれども、つくっている段階でありますので、そこからもうちょっとこれから次の段階としては観光客へのきめ細かなものに進めさせていただけたらなというふうに思っているところです。
○委員長（村井　弘）　　京都市さんからはよろしいですか。

小笠原広域連合副委員。
○広域連合副委員（広域観光・文化振興副担当）（小笠原憲一）　外から来られた方がいかに災害が起こったときに安全に避難できるか、あるいは帰宅できるかといったことは、おもてなしの根幹にかかわる話だというふうに思っております。先般、京都市でもまず、東山、清水寺の近辺で大規模な防災訓練を行いました。その中で、外国人の方にいかにスムーズに何か起こったときの対応ができるかといった視点も忘れないように、その訓練などの一部を占めておりましたし、また、先般、京都駅におきまして、ＪＲ各社の方々と、それから、近辺にいらっしゃる事業者の皆様方のご協力のもとに、帰宅困難者が３万人近く出るんじゃないかというふうに言われております。こうした方々にいかにスムーズに安全なところに避難していただくのか。こうした図上訓練も先般、行ったところでございます。そうした形で、私どもとしてもしっかりと海外から来られた方々に安全なところであるということがアピールできるような対策を京都府さんとも協力しながら進めさせていただいているといった状況でございます。
○委員長（村井　弘）　よろしいでしょうか。
他にご発言はございませんでしょうか。
なければ、西村副委員長。
○副委員長（西村昭三）　国内でも大阪のビル街なんかに行きますと、あちこちの県の事務所がありますね。大阪府、大阪市なんかで上海とか中国なんかにも事務所があり、それをばらばらやったらもったいないから合同にしたとかいうのも新聞に出ておりましたけども、関西広域連合なんですよね、入っておられるメンバーでアジア関係にそういう常設の事務所を持っておられるというのはちょっとわかりますか。わからなかったらまた次の機会で結構ですけど、例えば、当然、東南アジア関係が主なんですけども、いろんなシンガポールやあるいは、台湾、マレーシアとか、それでその都道府県、いわゆる関西広域連合の中の都道府県の方がどれくらいの常設事務所を持っているかなというのが１点。これはまた後で。
それと、当然、担当ですから、山田広域連合委員さんがあちこち海外プロモーションの実績を書いておられるし、大変だったと思うんですけど、物産展とか、あるいは観光展とか、あるいはまた、観光大使等々の表敬訪問等、やられておられるんですけども、将来2020年の関西での外国人旅行者消費額を約１兆円ぐらいを目標にしていると。今現在は約半分ぐらい、5,000億円ぐらいなんです。そう考えますと、個々の市とか、あるいは府、県じゃなくして、関西広域連合として常設の観光なり、物産に特化したそういう駐在的な事務所を、今すぐじゃないんですけど、将来、考えていくようなことは考えておられますか。その２点をお聞きしたいと思います。
○委員長（村井　弘）　山田広域連合委員。
○広域連合委員（広域観光・文化振興担当）（山田啓二）　事務所数については、正直言って今、ちょっと把握をしておりませんけれども、今も全国で確かちょっと記憶が間違っていたら申しわけないんですけれども、数百の事務所が実際にあったというふうに思っております。なぜそういうかというと、私、ＪＥＴＲＯの経営のほうの委員をやっているんですけれども、そうした事務所とＪＥＴＲＯとの提携関係をやれといって、上海では地方公共団体の事務所とＪＥＴＲＯが定期的に会合を持つということになったんですけれど

も、上海だけでももう物すごい数の事務所がありまして、京都も上海には事務所を持っております。ただ、そのほとんどの事務所というのは、どちらかというと、観光というよりは、経済関係の事務所が多くて、それぞれ大阪や兵庫、京都もみんな持っているところでありまして、京都市さんも確か幾つか持っているんですけれども。その中で、我々が今、始めておりますのは、関西広域連合として持つのではなくて、そうした事務所はやっぱり関西の意識を持っていこうじゃないかということで、確か、香港の兵庫県事務所は、看板に関西広域連合をかけていただいていたというふうに思っておりまして、それから、私どもも各関西の事務所がやはり関西を自分の都道府県や市だけはなくて、関西という意識を持った形で行動できるようにするし、その相互融通とか、相互連携をやっていったらどうかなというふうに思っております。関西広域連合自身は余り組織を大きくしない、それぞれの都道府県、政令市が持っている力を最大限に利用するというのが発足当初からの大きな理念でありましたので、その点からすると、今、大阪府と市の連携が言われておりますけれども、関西の持っている事務所の連携をさらに深めていきたいなというふうに思っておりますし、同時にＪＥＴＲＯとか、ＪＮＴＯ、それから、国際化協会のような国の機関と連携を深めてやっていきたいと思っています。それから、その中で、各プロモーションのほうも少し変えていかなければならないというふうに思っております。というのは、我々今まで関西ということで、関西の威容を示すという形で、井戸連合長のもとに知事が二、三人、そしてさらに、副知事、部局長を含めて三十数人の大デレゲーションが訪問して行くという形で、関西ここにありというのをやっていたんですけれども、ずっと４年間やってまいりますと、どちらかというと、行った先のほうは毎年来てほしいと。何々県は毎年来ているよと。関西は初めてじゃないかみたいな話になっておりまして、確かにそうした面で常設事務所みたいなのがあるといいんですけれど、そうしたところはそれぞれの利用をしながら、デレゲーションも小分けにいたしまして、できるだけまめにやっていくほうが効果的じゃないかなというふうな形でこれから行動させていただけたらなというふうに思っています。物産展もそうした形で各府県のものとうまく連携しながらやっていけたらなというふうに思っております。

○委員長（村井　弘）　　西村副委員長。

○副委員長（西村昭三）　　中国の上海とか北京とかいうのはかなり前から産業、経済でかなりの都道府県なんかも入られてると思うんですけど、今回の東南アジア主体の、特に今、これは観光関係の議論をやっているわけなんで、一度、各都道府県、あるいは市が東南アジアに事務所をどういう形で持っているか。あるいは事務所が具体的にどういう仕事をし、極端に言ったら、大きな成果が、どれくらいの成果があったかというような、ぜひ一回、次の機会までに調査をしていただければ非常にありがたいなと思います。よろしくお願いします。

○委員長（村井　弘）　　調査事項でよろしいですか。例えば、京都市さんの事例があればもし、お示しいただけるのであれば、なければもう調査事項で結構ですか。

高畑広域観光・文化振興局参事。

○広域観光・文化振興局参事（高畑重勝）　　京都市の高畑でございます。

観光につきましては、私ども今、10ヵ所の海外拠点を持っておりまして、拠点と申しましても、それぞれに委託をして現地の方に京都の魅力を現地で語っていただくという取り

組みでございます。おっしゃっておりましたアジア圏で申しますと、台湾、香港、上海、ソウルの４ヵ所にそうした拠点を持ってございます。

○委員長（村井　弘）　　よろしいですか。

他にご発言はございませんでしょうか。

それでは、発言も尽きたようでありますので、本件についてはこれで終了いたします。

次に、その他に移ります。

この際、ご発言はございますでしょうか。

発言もないようでございますので、以上で、第９回産業環境常任委員会を終了いたします。ありがとうございました。

午前11時37分閉会

関西広域連合議会委員会条例（平成23年関西広域連合条例第14号）第28条第１項の規定により、ここに署名する。

平成27年2月

産業環境常任委員会委員長　村井　弘